

【準決勝】 **B5** 7/14 開始 11:25 終了 12:39 所要 1時間14分

【審判】 山下英一郎、中島重幸、糸瀬明、西川典夫

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	打数	安打	打点	盗塁	盗塁死	犠打	犠飛	四死	三振	残塁	併殺	失策	
制覇クラブ	0	2	0	0	1	5回コールドゲーム					3	16	1	2	0	0	0	0	4	2	2	0	2
株式会社 親和銀行	3	3	0	3	1x						10	15	6	9	2	0	4	1	8	0	6	0	0

【本塁打】 貫亮介、北田亮佑(親和)、小西清弘(制覇)

【二塁打】 鹿田海斗、北田亮佑、貫亮介、森内麟太郎(親和)

【制覇クラブ】	1	2	3	4	5
⑨2 小西 清弘 29	三ゴロ	中直	…	…	左越本
⑥ 小宮 茂輝 32	遊ゴロ	…	三振	…	遊ゴロ
⑤ 春田 一馬 27	二ゴロ	…	投ゴロ	…	…
⑦ 三槻 伸也 35	…	死球	三ゴロ	…	…
⑧ 白石 勝太 31	…	死球	…	三振	…
③ 山坂 真心 29	…	四球	…	中飛	…
④ 春田 朱哉 20	…	二ゴロ	…	二ゴロ	…
① 高原 吉弘 31	…	四球	…	…	…
H1 国分祐太郎 30	…	…	…	…	遊飛
② 小宮 良太 32	…	一ゴロ	…	…	…
H9 岡部 洋平 29	…	…	…	…	遊ゴロ
【株式会社 親和銀行】	1	2	3	4	5
⑨ 鹿田 海斗 23	左線二	二ゴロ	…	四球	1E-3
④ 磯 祐一郎 28	投犠打	四球	…	三犠打	…
⑥ 山口 優大 25	死球	四球	…	右犠飛	…
⑧ 北田 亮祐 30	右飛	左中二	…	左中越本	…
⑦ 貫 亮介 23	左越本	中飛	…	右越二	…
③ 内山 大輔 34	三飛	…	…	左中二	…
3 森内麟太郎 23	…	…	四球	中飛	…
② 高坂 幸靖 27	…	…	…	…	…
H2 小川 優介 22	…	一飛失	一犠打	…	…
① 岡部慎太郎 28	…	死球	一飛	…	…
1 鳥越 大地 23	…	…	…	…	死球
⑤ 大竹 紘人 25	…	投犠打	一邪飛	…	四球

柵越え本塁打が3本出た。両翼90m、中堅110mでフェンス高1mとA会場に比べて狭い野球場であるが、3本ともA会場でも文句なしのオーバーフェンスであった。

初回の親和銀行は先頭鹿田の左線二塁打を犠打三進。死球(二盗)の二三塁に貫の当りはレフトが一步も動かない特大の左翼線3ラン。二回には敵失と死球を犠打で二三塁とし鹿田の一ゴロの間に三走が生還。2連続四球の二死満塁に、北田の左中間エンタイトル打で二者生還し、この回に3得点。三回も先頭四球を犠打二進させたがここは無得点。

四回にも先頭四球が二盗後に手堅く三塁前バントで三進後、山口の右犠飛で三走の鹿田を還すなど、全国レベルのソツのなさで加点。その後、北田に左中間越えのソロ本塁打は推定で120mの特大弾。さらに貫の右越え、森内の左中間と2連続二塁打で7点差を付けた。

制覇クラブは対馬支部予選会代表決定戦で厳原マリナーズとの対戦を棄権。開催地枠で2年ぶり6回目の天皇賜杯県大会。過去1勝止まりが二度あり上位進出は無かったが、26年県選手権大会では長崎三菱自販を撃破し、推薦の南原クラブも倒した準決勝で親和銀行と対戦し0-2敗戦のベスト4が県大会最上位。

二回先頭から3連続死四球の満塁に捕逸と一塁ゴロで2点を奪う。親和銀行の投手が鳥越に代わった五回表も二死。このままでは7点差コールド負けが決定する場面で、小西の当たりは左フェンスを遥かに超える一撃で一時はコールドを免れた。が…、

五回裏の親和銀行は代わった国分から連続死四球を得た一二塁に、投ゴロー塁悪送球で二走が還り7点差を付け、降雨のため日程変更した大会三日目の予備日に組んだ決勝戦に進出した。

平成30年間の天皇賜杯県大会で親和銀行は6年と、対馬で開催した10年の二度が支部代表に成れず、28回の大会で23回決勝進出し14回の優勝と、決勝敗戦の準優勝は9回となっている。